

雲仙市観光マーケティングレポート2026年8月

UNZEN City Tourism Marketing Report

2026
August

今月の風景/南串山町ひまわり畑

一般社団法人 雲仙観光局

UNZEN Destination Service



INDEX

今月のサマリー

年間訪問者数推移

今月の日別訪問者推移

今月のブロック別訪問者割合

今月の訪問者属性

今月の発地×年代比率

他都市比較

今月の特集：2026年お盆 来訪動向 — エリア比較と雲仙の実態

雲仙観光局活動報告

【7月実績】129,133人、前年比104%で夏休みシーズンへ

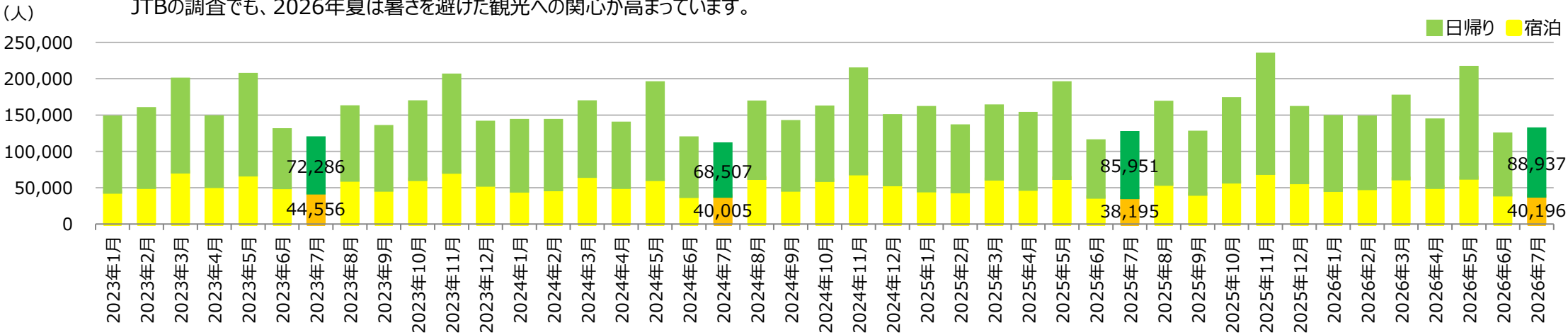
- 7月に雲仙市を訪れたお客様は129,133人で、前年同月（124,146人）を上回り、前年比104%となりました。夏休み開始による旅行需要の高まりに加え、猛暑を避けて「涼しい場所・夜間観光」を選ぶ旅行ニーズの強まりが影響したと考えられます。
- 曜日別では、平日が前年同月比116%と大きく伸びた一方、土曜（91%）・日・祝（93%）はやや前年を下回りました。全国的な物価高による旅行の節約志向や、混雑・旅行費用を避けてピーク時期を外す動きが影響した可能性があります。
- 訪問者属性では60代以上が34.5%（前月比+10pt）とさらに存在感を増し、男女比は男性63%・女性37%とほぼ前月と同様の結果でした。夏季限定の夜間イベント「雲仙涼花燈」の開催も、避暑・温泉・夜間観光を目的とした近距離旅行需要の取り込みに寄与した可能性があります。

【今月の特集】2026年お盆 来訪動向 — エリア比較と雲仙の実態

- お盆期間（8/8-16）の雲仙市来訪者数は前年とほぼ同水準（+0.1%）。しかし中身を見ると、来訪のタイミング・年代構成・発地のいずれも大きく入れ替わっており、「変わらなかった年」ではなく「顔ぶれが変わった年」でした。
- 九州7地点比較では、震災の影響が色濃く残る中、由布院・嬉野温泉に次いで前年水準を維持。連休の並びの違いで来訪の山が伝統的なお盆本番から山の日前後へシフトし、年代構成も30代中心から50～60代中心へ大きく入れ替わりました。
- 発地では福岡県が長崎県を上回りシェア1位に浮上しています。

年間訪問客数推移（2023年からの推移）

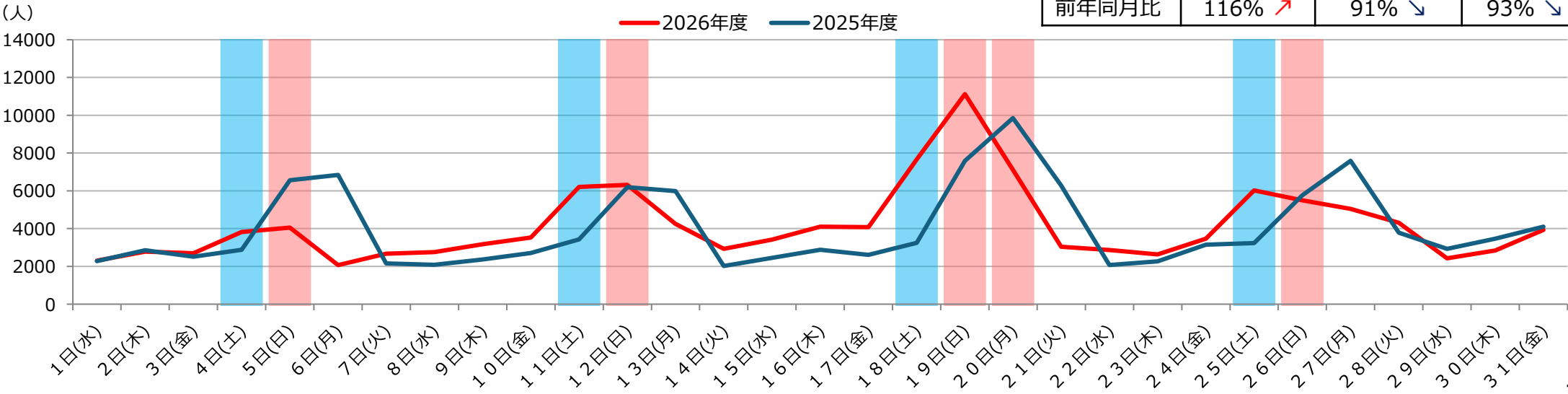
- ・訪問者数は129,133人（前年同月124,146人、**対比 104%**）で、前年を上回りました。
- ・来訪者増加には、夏休み開始による旅行需要の高まりに加え、猛暑を避けて「涼しい場所・夜間観光」を選ぶ旅行ニーズが強まったことが影響したと考えられます。JTBの調査でも、2026年夏は暑さを避けた観光への関心が高まっています。



7月の日別訪問客数推移

夏休みの開始や夏季イベントにより、休日の来訪が前月より増加しました。一方、休日は前年同月比を下回っており、全国的な物価高による旅行の節約志向や、混雑・旅行費用を避けてピーク時期を外す動きが影響した可能性があります。

7月	平日	土曜	日・祝
今月平均	3,242人/日	5,926人/日	6,820人/日
前月比	95% ↓	106% ↑	111% ↑
前年同月比	116% ↑	91% ↓	93% ↓

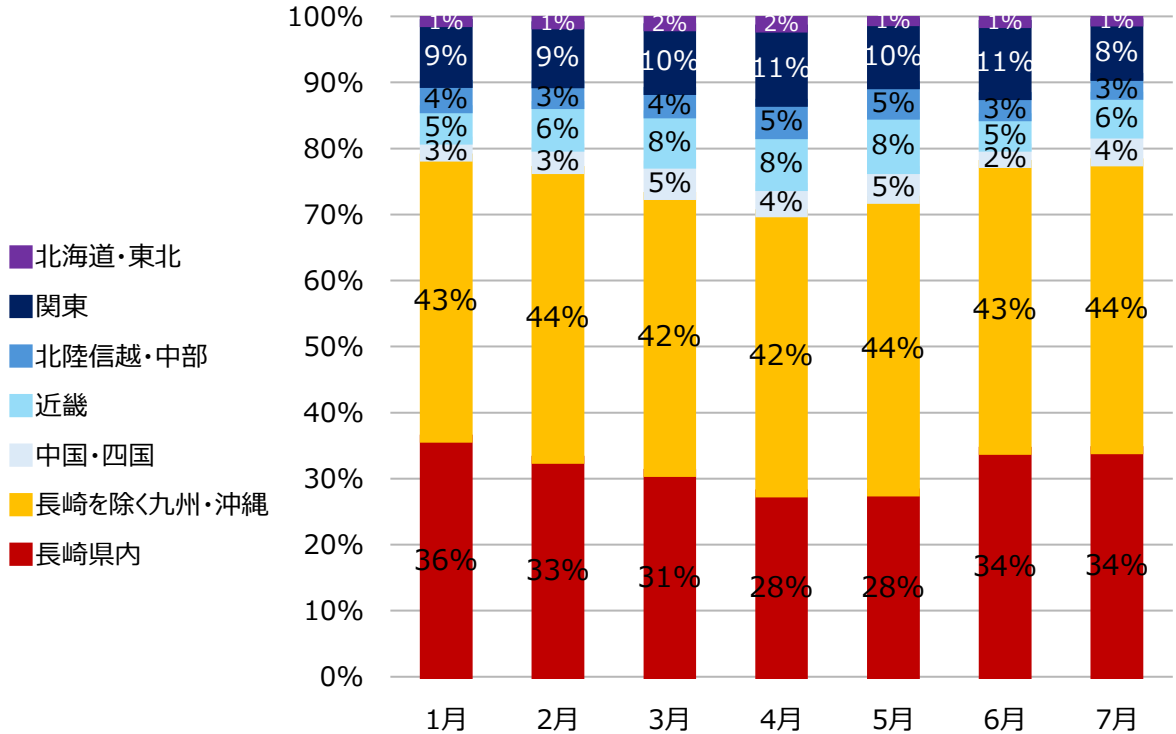


※延べ宿泊滞在数（例1名が2泊3日の場合は3名とカウント）

資料）おでかけウォッチャー、入湯税実績より推計

2026年7月の雲仙市ブロック別訪問者割合

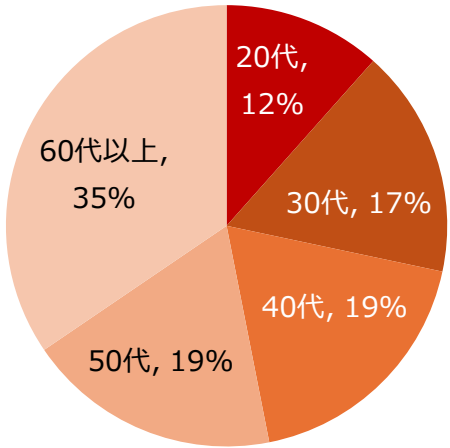
猛暑を避けた「涼」を求める旅行への関心が高まる中、雲仙では夏季限定の夜間イベント「雲仙涼花燈」も開催しており、避暑・温泉・夜間観光を楽しめる近距離旅行先として、長崎県内や九州圏からの需要を取り込んだ可能性があります。



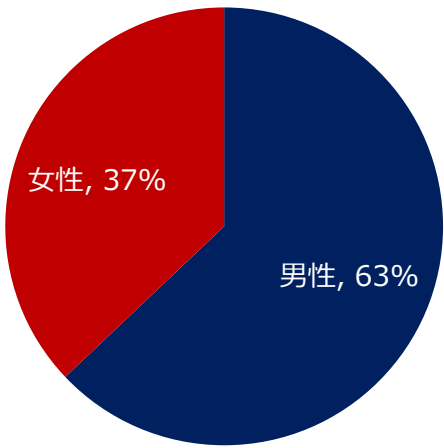
2026年7月の雲仙市訪問者属性

前月と比較したところ、7月は60代以上の来訪者が10%増加しました。(前月:60代以上25%) 全国的な猛暑を背景に、暑さを避けて自然や温泉でゆっくり過ごす旅行への関心が高まっており、雲仙の避暑地・温泉地としての特性が60代以上の旅行ニーズと合致した可能性があります。JTBの調査でも、夏は「温泉でゆっくりする」「自然を楽しむ」といった需要が一定数あり、暑さを避けた観光への関心も高まっています。

年代別



男女比



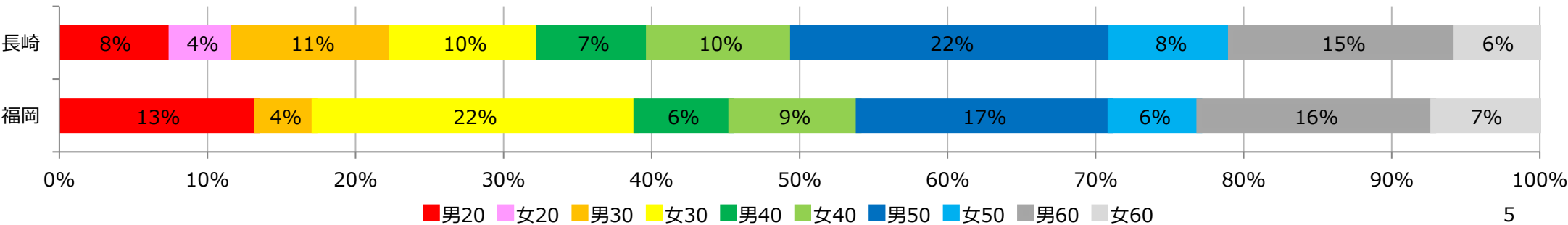
2026年6月の発地×年代・性別比率

※7月分のデータが出ていないため、6月分を記載

以下のグラフでは、2026年6月の来訪者についてエリアごとの年代、性別の比率を整理しました。

長崎県からは50～60代の割合が高く、小浜温泉では6月にジャカランダが見頃を迎えることも、中高年層の観光動機になった可能性があります。

一方、福岡県からは20～30代の割合が比較的高く、週末のドライブや短期旅行など若年層の近距離レジャー需要を取り込んだ可能性があります。



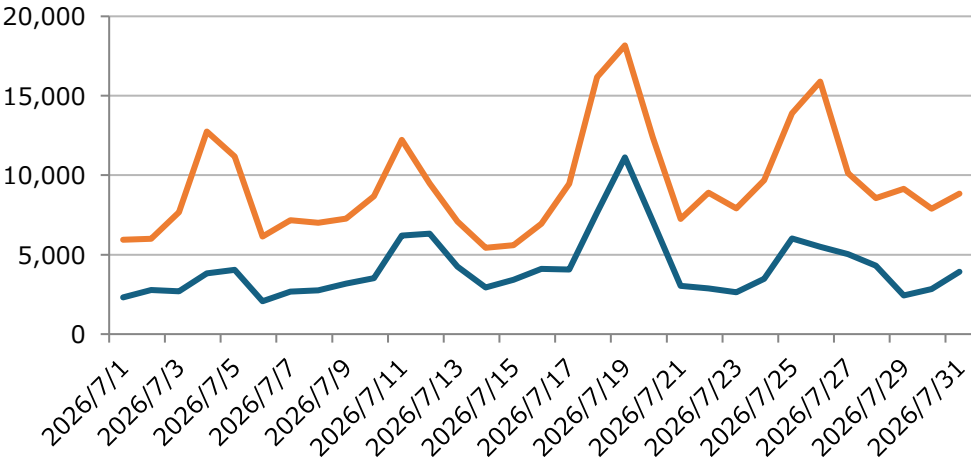
2026年7月、九州内の他地域の温泉街/県内他市との比較

2026年夏は物価高による節約志向から国内旅行者数自体は前年割れが予測される一方、猛暑を避けた「涼しい場所」や温泉、滞在型観光への関心が高まっています。そのため、雲仙・別府・由布のような温泉地が一定の需要を取り込んだ一方、阿蘇・南小国などでは旅行需要の分散等が影響した可能性があります。

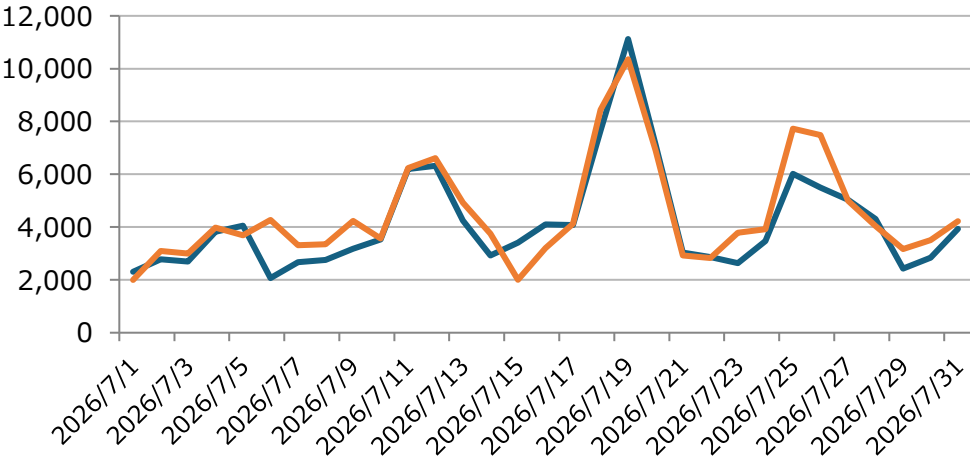
雲仙市
比較都市

	2026年度	2025年度	昨年対比
雲仙市	129,133	124,146	104%
長崎市	843,010	873,889	96%
佐世保市	515,532	546,628	94%
別府市	290,858	276,427	105%
由布市	139,648	130,350	107%
嬉野市	68,000	68,147	100%
阿蘇市	255,742	296,459	86%
南小国町 (黒川温泉)	74,984	94,435	79%

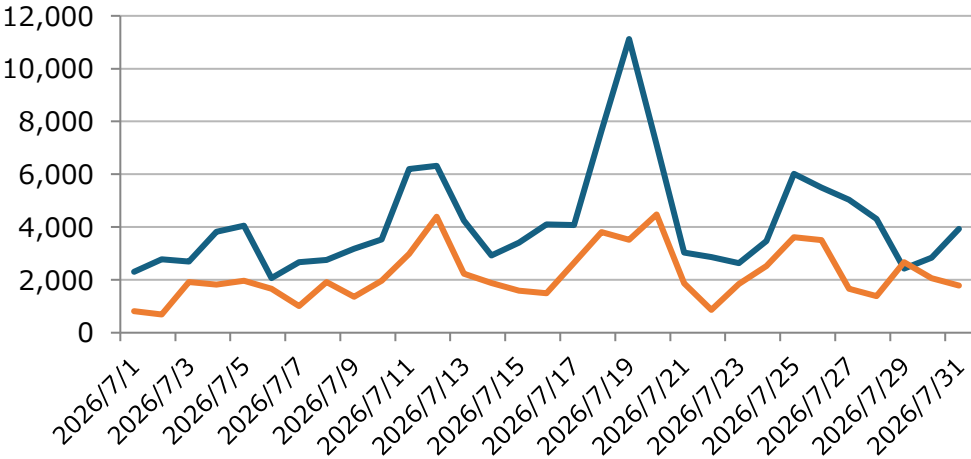
雲仙市×別府市



雲仙市×由布市



雲仙市×嬉野市

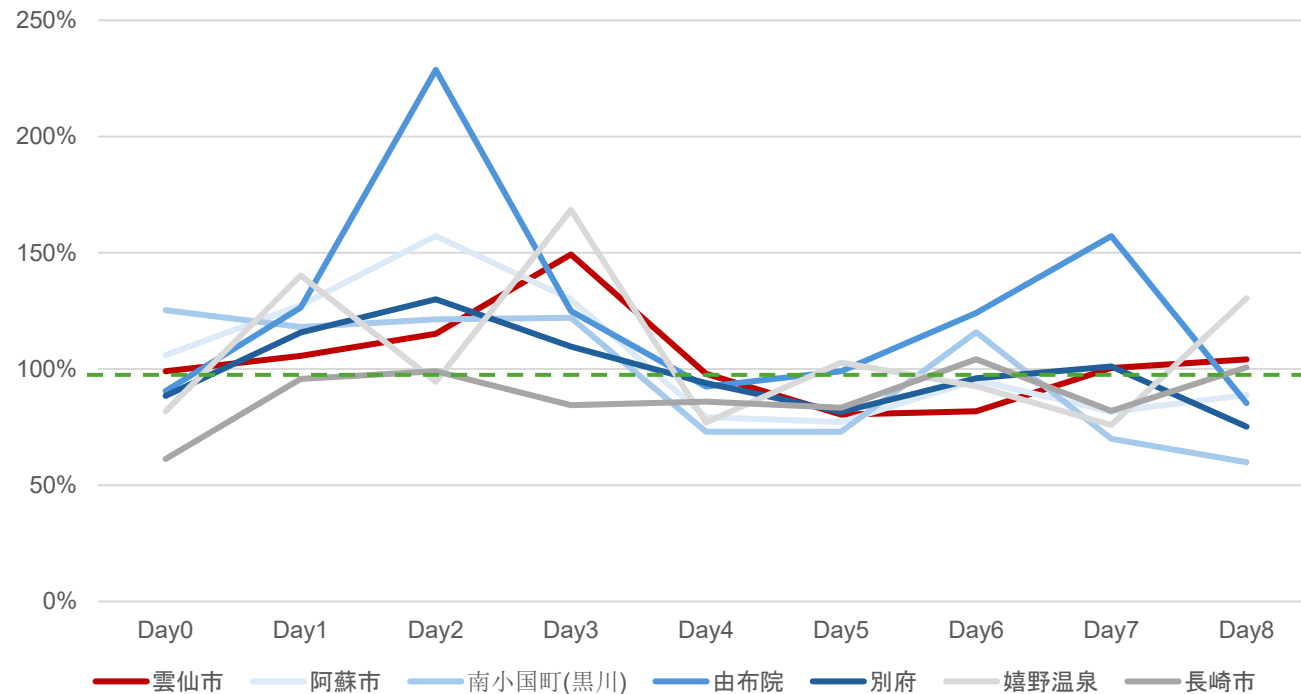


特集:2026年お盆 来訪動向 — エリア比較と雲仙の実態

2026年のお盆（8月8日～16日）は、山の日（8/11）の曜日配置が前年と変わりました。雲仙市を含む九州7地点で期間全体（8/8-16・8/9-17）の来訪者数（宿泊・日帰りを含む、GPSデータによる滞在人口の推計値）を比べてみると、地点ごとに個性豊かな結果が出ています。その中で、雲仙市はどんな動きを見せたのでしょうか。

本特集の来訪者数は、「おでかけウォッチャー」のGPS位置情報データに基づく推計値です。**宿泊・日帰りを問わず、雲仙市内に滞在したすべての人をカウントしており、観光目的の来訪だけでなく、帰省など、観光以外の理由での滞在も含まれます。**そのため、特に帰省が集中しやすいお盆期間は、純粋な「観光需要」よりもやや大きめの数字として表れている可能性があります。

▼九州観光地 お盆期間 来訪者数トレンド比較



地点	県	2025合計	2026合計	前年比
雲仙市	長崎県	70,961	71,034	+0.1%
阿蘇市	熊本県	133,062	130,070	-2.2%
南小国町(黒川温泉)	熊本県	44,973	41,773	-7.1%
由布院	大分県	73,312	88,098	+20.2%
別府	大分県	151,751	149,008	-1.8%
嬉野温泉	佐賀県	38,935	40,441	+3.9%
長崎市	長崎県	481,269	420,616	-12.6%

雲仙市の来訪者数は、去年のお盆とほぼ同じ（+0.1%）でした。

「変わらなかった」と言えば聞こえはいいですが、実はこれ、九州の観光地としてはやや珍しい結果です。

しかも今年は、7月28日に発生した令和8年熊本地震（最大震度7）から2週間ほどしか経っていない中でのお盆でした。

そうした状況を踏まえると、比較した九州7地点のうち去年より人が増えたのは由布院(+20.2%)・嬉野温泉(+3.9%)・雲仙市(+0.1%)の3地点のみで、残る4地点はすべて前年割れという結果は、**九州全体として観光の動きが例年より鈍かったことの表れとも読めます。**そんな中で雲仙市は、大きく伸びた由布院・嬉野温泉に次いで「踏みとどまった」側に入っています。攻めの数字ではありませんが、地震の影響が色濃く残る時期にあって、これは決して小さな成果ではありません。

※地震と各地点の増減との因果関係は、今回のデータだけでは特定できません。あくまで「そうした背景があった年である」という文脈として記載しています。

▼地点間の日別×昨年対比より

同じ九州エリア、同じお盆期間でも、地点によって数字の動き方はさまざまでした。地震という共通の逆風がある中で、単純な立地や規模の差だけでは結果は説明できません。震源からの距離、観光客の構成、普段の集客経路など、各地点が置かれた状況の違いが、そのまま数字の差として表れたと考えられます。

▼2025年 日別実数

地点	8/9(土)	8/10(日)	8/11(月・祝)	8/12(火)	8/13(水)	8/14(木)	8/15(金)	8/16(土)	8/17(日)
雲仙市	4,969	7,325	4,656	6,134	7,922	11,106	11,351	9,318	8,180
阿蘇市	7,752	12,424	7,083	12,674	17,326	21,333	19,756	19,999	14,715
南小国町(黒川)	3,389	4,312	2,814	4,265	5,010	6,327	6,369	6,826	5,661
由布院	7,624	7,453	5,152	7,044	10,866	9,933	10,008	8,190	7,042
別府	16,110	17,503	13,441	15,170	18,276	19,735	20,226	16,252	15,038
嬉野温泉	3,189	2,563	3,986	4,525	5,571	4,641	4,733	6,022	3,705
長崎市	64,406	55,417	44,018	48,790	50,284	57,029	54,514	63,443	43,368

▼2026年 日別実数

地点	8/8(土)	8/9(日)	8/10(月)	8/11(火・祝)	8/12(水)	8/13(木)	8/14(金)	8/15(土)	8/16(日)
雲仙市	4,919	7,745	5,361	9,158	7,765	8,924	9,294	9,353	8,515
阿蘇市	8,207	15,822	11,136	16,495	13,735	16,478	18,807	16,313	13,077
南小国町(黒川)	4,246	5,092	3,415	5,202	3,657	4,617	7,375	4,780	3,389
由布院	6,900	9,418	11,781	8,807	10,055	9,835	12,419	12,874	6,009
別府	14,253	20,245	17,476	16,620	17,160	16,104	19,417	16,428	11,305
嬉野温泉	2,612	3,594	3,767	7,624	4,288	4,773	4,383	4,570	4,830
長崎市	39,513	53,039	43,585	41,176	43,254	47,564	56,777	52,040	43,668

雲仙市の強み・弱み、日別の動きを雲仙市自身に当てはめると、2つの特徴が見えてきます。

強み：山の日の需要を取り込めている

雲仙市の山の日単体（8/11）は+96.7%と、嬉野温泉の+68%と並んで、7地点の中でも取り込み幅が大きい部類に入ります。連休の並びが変わっても、そのタイミングに合わせて来訪者を呼び込めていることは、雲仙市の集客力の強さと言えます。

弱み：伝統的なお盆本番（8/14・15）は他地点ほど伸びていない

一方、従来お盆のピークだった8/14・15は、2025年の11,106人・11,351人から2026年は8,924人・9,294人へと減少しました。由布院はほぼ全日程で前年を上回っており、山の日だけでなく期間全体を通じて需要を取り込めている点が対照的です。雲仙市は「山の日には強いが、お盆本番には他地点ほど強くない」という特徴が浮かび上がります。

示唆：山の日周辺への集客力はすでにある強みとして活かしつつ、8/14・15のような伝統的なお盆本番の来訪を下支えする施策（法要・帰省需要とは別軸の日中イベントなど）を検討する余地がありそうです。連休の形がどう変わっても取りこぼさない、複数のタイミングで強い状態を目指すことが次の課題と言えます。

▼雲仙市来訪の「型」の変化

総来訪者数だけを見ると2025年とほぼ同水準（+0.1%）だが、来訪の「山」がどこにあったかは大きく変わった。連休の曜日配置の違いが、来訪のタイミングを動かしている。

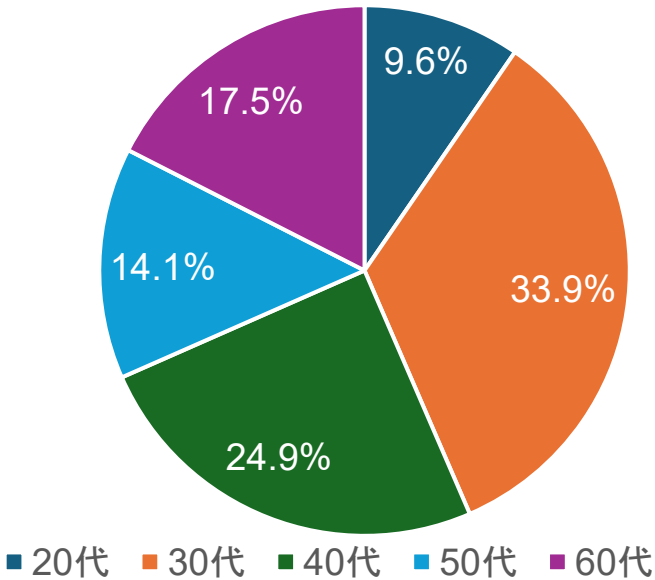
■お盆休み期間の区分を細かく整理し比較

区分	2025	2026	前年対比
期間合計(9日間)	70,961	71,034	+0.1%
山の日(祝日単体・1日)	4,656	9,158	+96.7%
週末(土日×2回・4日)	29,792	30,532	+2.5%
平日残り(4日)	36,513	31,344	-14.2%

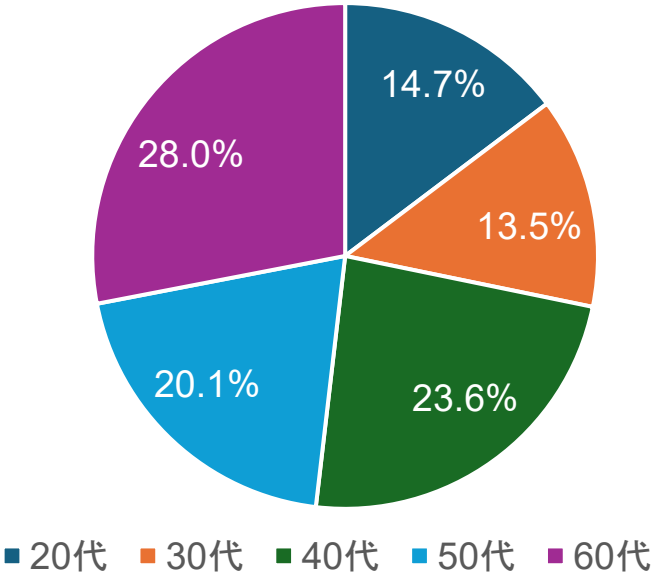
総来訪者数だけを見れば「前年並み」の一言で終わってしまいますが、中身を覗くと、**来訪の"重心"がまるごと動いていることが分かります**。2025年は山の日が月曜だったため、土日と合わせた3連休の形になり、8/12～15（火～金）の平日に来訪が集中、8/14・15はともに11,000人を超えるピークを記録しました。
ところが2026年は山の日が火曜となり、月曜が「橋渡し休み」として機能したことで、山の日単体の来訪者数が前年の約2倍（+96.7%）に急伸。一方でそれ以外の平日4日間は-14.2%と落ち込みました。総数はほぼ変わらないのに、「いつ来るか」がここまで入れ替わる——毎年「お盆といえばこの日が混む」と決めつけず、連休の並び方によって混雑のタイミングが動くことを知っておくと、地域のお店や施設側も、住民の方も、心構えがしやすくなりそうです。

■年代の変化

2025構成比



2026構成比



来訪者数だけでなく、「誰が来ているか」にも大きな変化がありました。2025年は30代が33.9%と圧倒的な主役でしたが、2026年はその座を明け渡し13.5%まで縮小。代わって60代(17.5%→28.0%)・50代(14.1%→20.1%)・20代(9.6%→14.7%)がそれぞれ存在感を増しています。

山の日周辺への来訪シフト（+96.7%）と重ね合わせると、**これまでお盆の中心だった子育て世代とは違う層が、山の日前後の来訪を押し上げた可能性が見えてきます。**

▼どの都道府県から来ているかの推移を分析

お盆期間の発地（どこから来たか）を見ると、福岡県が長崎県を上回りシェア1位に浮上しました。

順位	都道府県	2025人数	2026人数	増減人数	前年対比
1	福岡県	14,244	19,907	+5,663	+39.8%
2	長崎県	19,499	19,842	+343	+1.8%
3	熊本県	9,180	9,309	+129	+1.4%
4	大阪府	3,191	2,764	-427	-13.4%
5	佐賀県	2,994	2,160	-834	-27.9%
6	神奈川県	1,795	2,017	+222	+12.4%
7	東京都	2,504	1,975	-529	-21.1%
8	兵庫県	1,734	1,663	-71	-4.1%
9	愛知県	1,920	1,487	-433	-22.6%
10	宮崎県	700	1,077	+377	+53.9%

発地（どこから来たか）を見ると、今年の主演は完全に福岡県でした。前年からの+5,663人という伸びは、2位の長崎県(+343人)・3位の熊本県(+129人)を合わせてもまだ届かないほどの規模で、**今回の発地シフトはほぼ福岡県一極集中の動きと言えます。**
この伸びの一因として考えられるのが、2026年に新規開催された「雲仙涼花燈」です。お盆期間中の来場者数（約4,400人）に、涼花燈アンケートで判明した福岡県居住者比率（20.2%）を当てはめると、福岡県からの増加分のうち1～2割程度（試算で約890人）を涼花燈が牽引した可能性があります。
涼花燈のように雲仙への集客力があるイベントを核に、市全域への回遊を促す取り組みを次年度は進めていきます。

▼今年の夏休み（盆期間）の総括

2026年のお盆は、総来訪者数だけを見れば前年とほぼ同水準（+0.1%）でした。
しかし中身を見ると、来訪のタイミング・年代構成・発地のいずれも前年から大きく入れ替わっており、「変わらなかった年」ではなく「顔ぶれが変わった年」だったと言えます。
山の日の曜日配置の違いにより、来訪の重心が伝統的なお盆本番から山の日前後へシフト。年代構成では、これまで中心だった30代が縮小し、50～60代を中心とした幅広い層に置き換わりました。発地では福岡県からの来訪が大きく伸び、長年1位だった長崎県を上回っています。
総数の安定という表面だけでなく、こうした構造の変化を踏まえて、来年度以降のプロモーション設計（時期・ターゲット層・発地エリア）を見直していく必要があります。
例えば、新たに伸びている50～60代に加えて今回落ち込んだ30代の層・福岡発地層に向けた情報発信の強化、そして市内一箇所に来訪が集中するのではなく市全域を回遊してもらうための周遊施策など、時期・ターゲット層・発地エリアの3つの切り口から具体策を検討し、対策を講じていきます。

地域の夏祭りへの参加

今年、雲仙観光局では初めての試みとして、地域で開催される夏祭りに、出店や運営スタッフとして参加しました。

7/19(日)に開催された「千々石ミニフェス」への出店に続き、8/11(火・祝)には「南串山ふるさと夏まつり」にスタッフとして参加。地域の方々と一緒に準備や運営に携わり、実際の現場や地域の皆さまの思いに触れる貴重な機会となりました。地域のイベントに参加することで、地域の魅力や課題を改めて知るとともに、観光だけでは見えにくい「地域の活力」や「人のつながり」を感じることができました。こうした経験を、今後の観光地域づくりにも活かしていきたいと考えています。

今後も、さまざまな地域のイベントに積極的に参加し、地域の皆さまとのつながりを深めながら、協力し合える関係づくりを進めてまいります。



千々石ミニフェスへの出店 ↑



南串山ふるさと夏祭り ↑

モデル観光地事業のようす

九州ボルケーノツーリズム協議会では、各地で「火山×温泉×地域の物語」を生かした、世界基準の観光づくりが進んでいます。

地域ごとに事業者が集まるワーキングを開催し、それぞれの体験を「点」で終わらせず、3泊4日の旅全体を一つの物語としてつなぐ取り組みを進めています。また、雨天時にも楽しめる「全天候型コンテンツ」や、旅行者の価値観や行動の変化につながる体験づくりも検討中です。

海外市場では、欧米豪を中心とした長期滞在・高付加価値旅行の商談が具体的に決定する一方、二次交通や多言語ガイドなど、受入環境の課題も見えてきています。海外旅行者からは、雲仙・島原を含む「火山×温泉×歴史」の魅力への関心も高まっています。

10月にFAMツアーを予定しており、雲仙・島原エリアは10/7(水)～10/10(土)に海外エージェント等をお迎えする予定。

今月の商談会・受入実績

商談会

- ・8/3(月)@大阪 長崎観光大商談会（長崎県観光連盟主催）
フリー商談スタイルで開催され、雲仙観光局は9社と商談。会全体では、主に団体旅行を取り扱う旅行会社など60社が参加しました。
- ・8/4(火)@大阪 在阪AGT修学旅行セールス（自主事業）
大手5社と商談（主に中学校を取り扱う旅行会社）

ツアー等受入

- ・7～11月 東南旅行社(台湾)
定期ツアー中のビーガン昼食を提案から当日の管理まで行っている。
- ・7/20(月)-21(火) The Japan travel company 教育者ツアー
- ・7/31(金) Inside Japan モニターツアー
- ・8/21(金) JRPrivateTour 登山ガイド

R8年度雲仙観光DXアカデミーがはじまりました

8/20(木)、小浜温泉観光案内所2階にて第1回雲仙観光DXアカデミーがスタートしました。

第1回は自社の分析として、現状把握とありたい姿を明らかにする2時間となりました。常日頃の仕事を、第3者である伴走者に話していくことにより、客観的な言語化につながっているようでした。

参加事業者様からは、早速「参加してよかった」「自分の背中を押す良い機会」との声をいただいております。

局員による徹底した伴走が1対1で行われる本アカデミーには、今回、市内の5事業者様が参加いただき、毎週木曜日全9回のプログラムを駆け抜けます。10月末には成果の発表会が行われる予定です。



第3回雲仙市を365日楽しむワーキングのようす

8/18(火)、橘湾東部漁協様のご協力のもと、小浜港湾の早朝のセリを見学し、漁協の田中様から橘湾の漁業や水産資源についてお話を伺いました。

橘湾は、魚種が豊富で多様な漁法が存在する一方、30年程前と比べて水産資源が減少し、漁業者の減少や後継者不足、燃料費の高騰などの課題を抱えていることがわかりました。普段目になっている橘湾の裏側には、変化する海の環境、漁法、市場の仕組み、そして漁業者の暮らしがあることを実感したフィールドワークとなりました。

今回伺ったお話も季節の暦に加えながら、雲仙市の365日を楽しむ視点として整理していきます。



雲仙市観光マーケティングレポート 2026年8月号

【ご注意：本資料の転載・複製での利用について】

本資料は、一般社団法人 雲仙観光局の著作物であり、著作権法に基づき保護されています。本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要です。事前に当局までご連絡ください。使用用途によって転載・複製をご遠慮いただく場合もございます、予めご了承ください。
※お問い合わせ先：雲仙観光局／ブランディング・マーケティング部（担当：黒原・白濱・衣川）
本資料は弊局が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。本資料を利用する場合にはお客さまのご判断でご利用ください。

Find UNZEN 雲仙観光情報サイト
| 自分らしい雲仙を見つけよう |

一般社団法人 雲仙観光局 UNZEN Destination Service

〒854-0621 雲仙市小浜町雲仙320番地 TEL：0957-73-3639 FAX：0957-73-3620

(公式URL) <https://unzen-dmo.com> (全員集合！雲仙ポータル) <https://www.unzen-portal.jp/>

